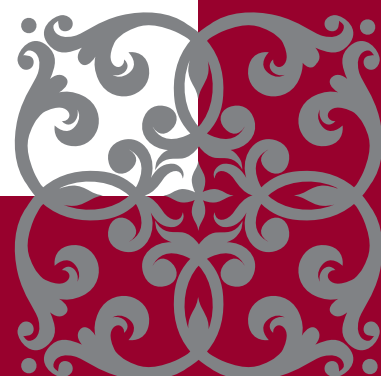


サイエントロジー教会

ユハ・ペンティカイネン博士
マーヤ・ペンティカイネン修士

フィンランド、ヘルシンキ
1996年5月



サイエントロジー教会

ユハ・ペンティカイネン博士
マーヤ・ペンティカイネン修士

フィンランド、ヘルシンキ
1996年5月



目次

はじめに	2
宗教の概念について	3
宗教の5つの側面	4
サイエントロジーの宗教・哲学的背景	6
正統性を追求する「書物的宗教」	7
サイエントロジスト流の儀式と生活様式	8
宗教間交流におけるサイエントロジーの役割	10
新しい宗教としてのサイエントロジー教会	10
A. 認識的な側面	11
B. 情緒的または感情的な側面	11
C. 意欲や行動的な側面	11
D. 社会的な側面	12
E. 文化的な側面	12
結論	13
サイエントロジーに関する情報源について	14



サイエントロジー教会

ユハ・ペンティカイネン博士
マーヤ・ペンティカイネン修士

フィンランド、ヘルシンキ
1996年5月

この共同レポートは、1996年1月にユハとマーヤ・ペンティカイネンによって書かれたものであり、以下はその要約です。

ユハ・ペンティカイネン博士は、フィンランドのヘルシンキ大学の教授であり、宗教学部長です。またノルウェーのトロムソ大学社会科学研究所の所長でもあります。1968年にフィンランドのトゥルク大学から博士号の学位を受け取った後、彼は1972年にヘルシンキ大学で、宗教研究の新たな専門分野を始めるよう任命されました。彼は、さまざまな大学で宗教学、文化/社会人類学、民俗学、スカンジナビア学の客員教授を務めました。カリフォルニア州（ロサンゼルス、バークレー校）、テキサス州（オースティン）、ミネソタ州（ミネアポリス）、インディアナ州（ブルーミントン）、ローマ（サピエンツァ）などです。そして国連やユネスコのフィンランド代表を務め、フィンランド政府や聖職者によって推薦された、いくつかの作業部会や委員会のメンバーやアドバイザーでもあります。ユハ・ペンティカイネンは、南アメリカ以外のすべての大陸でフィールドワークを行い、60ヵ国以上で講演しました。1994年、彼はノルウェーのトロムソ大学社会科学研究所から、宗教学の新たな専門分野と学科を始めるように招かれました。彼の20冊以上の書籍、350の記事、10本のフィルムは、いくつかの国際的な賞と学位が授与されています。1995年、彼はフィンランド科学アカデミーのメンバーに推薦されました。

マーヤ・ペンティカイネン修士は、フィンランド、タンペレ市の外国人事務所の所長です。社会政策の学位を得た後、彼女は現在、タンペレ大学で博士論文を執筆中です。彼女はソーシャルワーカーであり、現在は1989年に創始したオフィスの議長を務めています。彼女はタンペレ大学とヘルシンキ大学の講師を務める一方、さまざまな専門家グループと委員会のメンバーでもあり、外国人、移民、難民、社会問題、価値観、宗教などに関するさまざまな問題について、政府や議会の顧問も務めています。彼女の出版物には、『文化は鍵となる』（1994年）、『フィンランドの出入国者』（1995年）、フィンランドの外国人と難民に関するユネスコの報告書などがあります。1995年、韓国のソウルで開催された教授たちによる国際会議で、彼女は「家族の未来」に関する公開討論会の議長を務めました。

はじめに

サイエントロジー教会に関するこの共同レポートが、宗教学者とソーシャルワーカーの科学者によって書かれました。その焦点は、サイエントロジー教会の背景、歴史、現状です。以下で答えられるべき主な質問は、「宗教」としてのサイエントロジーの役割と、考えられるステータスです。つまり、サイエントロジーは宗教なのか？ です。

サイエントロジーの歴史は浅い。それは、L. ロン ハバードによって『ダイアネティックス：心の健康のための現代科学』の出版された1950年、あるいはカリフォルニア州ロサンゼルスに最初のサイエントロジー教会が設立された1954年から始まったと言えます。もちろん、どちらも創設者と呼ばれるL. ロン ハバード（1911-1986年）の思想や生涯の歴史に関連しています。なぜなら、彼がダイアネティックスの原理を生み出し、サイエントロジーの教義を確立したからです。

サイエントロジーのルーツがアメリカであるという事実は、教会に属する文化的特質をもたらしました。その母国語は英語であり、そのライフスタイルはまさしくアメリカ風なので、他の言語を話す文化にもっと深く普及していく努力が周期的に妨げられる可能性があります。にもかかわらず、現代のサイエントロジー教会の分布は、西側諸国以外の国でも顕著です。

1994年、教会のプレジデントの報告によると、この40年でサイエントロジー教会は、すべての大陸の107ヵ国に基盤を確立したとのことです。設立された組織（教会、ミッション、または実践するために組織化されたグループのいずれか）は2,318あり、その数は急増しています。

この成長は東欧や中央ヨーロッパ、そして旧ソ連のモスクワ、サンクトペテルブルクからウクライナ、カザフスタン、モルドバ、そしてシベリアにわたる地域で特に顕著です。新しいミッションが1994年に21、1995年に24です。ハンガリーには10以上のミッションがあり、東ヨーロッパのもうひとつの中心です。中国、オーストラリア、ニュージーランド、アフリカ、中南米などの遠隔地でも成長傾向にあることから、サイエントロジー教会は、少なくとも地理的には世界的な分布に近付いています。

実践しているサイエントロジストや教会員の総数は数百万人に上ります。教会の特殊な性質のために、正確な数を与えるのは難しいのですが、宗教儀式のために場所を提供するだけでなく、内部やその周辺で終日献身する必要はなく、参加したり興味を持った人々のための仕事場であり、複合的な社会施設です。それは多くの宗教宗派の典型です。

1994年、国際サイエントロジー教会によると、世界中に約800万人のサイエントロジストがいます。

宗教の概念について

宗教の学術研究は、18世紀ヨーロッパにおける、啓蒙期の哲学者に触発された思想の歴史によって、19世紀初めに西洋世界で始まりました。探検家や宣教師が収集した、古代の宗教的伝統 (特にインドと極東の哲学) についての新しい情報がヨーロッパの学界に届き、宗教の定義を再定義する必要性が生じました。

キリスト教とユダヤ教のみ、時にイスラム教も意味していたその概念は、ヒンドゥー教や仏教、儒教、道教、神道、ゾロアスター教などの東洋の宗教哲学も含まれるようになりました。「宗教の歴史」または「比較宗教」と呼ばれる新しい専門分野は、一般的かつ相対的なアプローチとなりました。

その主な分野のひとつである宗教の現象学は、その分野の範囲の広さから、宗教学者が簡潔な定義 (同時に宗教心に関する本質が含まれ、世界中の洗練された、またはされていない宗教にも有効なもの) を提示することは困難であることを指摘しました。宗教を定義する多くの努力のうち、ひとつは、仏教がいわゆる世界宗教のひとつであることを (少なくとも理論的には) 学者たちが発見するまで、「神」の概念を基準にしていました。また世界宗教を「無神論」宗教という特別な名称によって強調しようとしていました。

宗教学者よりも政府関係者によって頻繁に強調される宗教に関する狭義の概念は、現代世界では再考が必要です。ほとんどのヨーロッパ言語、すなわちゲルマン系、ローマ系、スラブ系のいずれかの形で見られる「宗教」という単語は、ラテン語の「religio」に由来します。この概念には、特に「神」に依存しているという考えが含まれています。したがって、ラテン語の「*cuius regio eius religio* (領主の宗教が領民の宗教)」の原則は、16世紀以降、皇帝や公爵が、改革後のヨーロッパで、どのように信念と行動を取るべきかを決める力を持っていたことを意味しています。この種の、神または社会との「つながり」の存在という問題は、非常に西洋的なものですが、その考え自体が実際は、世界の多くの文化において欠落しています。

ですから、この種の宗教の西洋的な前提は、古代東方の宗教哲学的伝統には無理矢理にしか適用できません。中国の世界観の三つの主なもの (道教、儒教、仏教) は、西洋では宗教としてではなく、むしろひとつの目的地へと向かう「三つの道 (Tao)」、つまり「陰」と「陽」の調和の原則であるとさえ述べられています。

言い換えれば、「宗教」に関連する言葉 (religio-) とつながる概念がなくても、非常に宗教的であるように見える文化が、世界中に数多く存在しているということです。これは、とりわけ、私たちがフィールドワークを行ってきた旧世界と新世界の北方文化に関係します。人々は、宗教と呼ばれることなく、アニミズムとシャーマンの儀式を実践しています。1994年に、シベリア南東部のロワー

ル・アムール地域に住むナナイ族のシャーマネスによって、私たちになされた声明は、この典型的な例として引用することができるかもしれません。「キリスト教 — それはロシア語です。私たちにはシャーマンしかいません。」

現在のもうひとつの問題は、宗教における現代的な多機能の代替的な役割に関することです。最近の世界史を見てみると、共産主義、マルクス主義、毛沢東主義などといった取り組みは、「非宗教的」国家と社会しか構成せず、また成功もしていません。以前の世紀と今世紀の間に生まれたこれらの、そして他の物質主義や人間中心主義的イデオロギーで考えられていたことよりも、人間の心そのものは、宗教的な事柄により興味を持っていることがはっきりと示されました。

宗教の5つの側面

「学者の間で一般に受け入れられている宗教の決定的な定義は存在しない。」ブライアン・ロナルド・ウィルソン (Bryan Ronald Wilson) などの、この声明を共有することで、私たちは総合的な定義ではなく、宗教の主要な要素を明確にするために以下が好まれています。これまでに研究されてきた、識字能力の高い社会と低い社会に見られる5つの側面から、通常「宗教」と呼ばれる現象にアプローチすることは可能のようです。この比較宗教現象の型は、ユハ・ペンティカイネンの論文『口頭のレパートリーと世界観』 (Academia Scientiarum Fennica, FFC No. 219, Helsinki 1978年) の中に、より完全な説明があります。

1. 宗教の認識的な側面は、知的要因（「超自然的」なものの存在に対する宇宙観および世界観、価値観、信念といったもの）から成り立っている。「超自然的」とはつまり、ひとつまたは複数の神、または人々の運命、必要性、価値を見守るとされる「超常態」的な姿および力のことである。この「他」の物語や神話、信念を含む伝承の事柄が世代から世代または人から人へと伝えられることは、宗教においてごく当たり前である。

彼らの出典・出所における、その主要な違いは、その宗教にある識字能力である。識字能力の低い文化で口語的に語られた神話、「書物的宗教」の高度に体系化された神学的教義、宗教哲学の集積された資料には、すべてこの宗教の認識的な側面がある。とりわけ、キリスト教やイスラム教、仏教といった意識的な宣教宗教の使命の支持者によって公にされてきたように、それはしばしば簡潔に定式化された「信条」として表現されている。

2. 愛情や感情のレベルは、宗教的な感情、態度、体験を指す。人は通常、何か超自然的なものに依存していると感じ、同時にそれと何らかのつながりを感じている。宗教体験とは、自然と超自然との相互作用の状態であり、宗教的な人物、あるいはむしろその人物によって行われる伝承の事柄が、超自然的な人物またはその人の宗教的信念を支配する権威者との会合を実現させる状態のことである。

3. 宗教における意欲的または行動的な側面は、行動の形式として、その行動レベルに見られる。これには (生贄、祈り、魔除け、宣言といった) 個人やグループ、社会が、精神による超自然的な存在との融合や交信といった、伝統的手段の援助によって達成できる儀式や社会慣習が含まれる。

意欲的な側面にあるもうひとつの重要な部分は、道徳と関連している。儀式や祭式のほかに、宗教は通常、特定の倫理的行動を前提にする。これは、例えばこれまでの価値に到達できるように、その宗教で約束された報酬を獲得できるように、そして回避された規範と、タブーに違反した場合に罰が科されるように、特定の規範を観察した際に顕著となる。

4. 社会的要因は、すべての宗教の基本的な部分を形成する。宗教は通常、信者の宗教的見解を監視し、特定の任務を共に実行し、信者の宗教的、倫理的行動を管理するグループまたは社会的存在を前提としている。

これら、より大規模な社会のメンバーたちは (時に国家、小さなグループのものでさえ) 通常、この世界、または「その他の」世界に共通する宗教によって、そのメンバーたちに課された共通の目標を達成するために協力し合う。宗教的行動は、今日においても非常に社会的で、統制されているが、厳格に確立されてきた宗教は、以前あった重要性がかなり失われているようである。代わりに、意識がなく、確立されていない宗教性のプライバシーが強調され、それに従って、確立された教会の機能の多くがそれほど正式ではない宗教に置き換えられている。

5. 文化的なレベルはあまり考慮されることがないが、宗教全般に関する限り、それは非常に影響力があり、また包括的な要素である。それは基本的に、その宗教が実践されている生態的、社会的、文化的な環境において、その宗教に対する依存という形 (時間と空間の両方) で現れる。

言語と民族性は、「文化としての宗教」における最も重要な変数のふたつである。特別に考慮すべき事は、多くの人々にとって「宗教」は、独断的な信念や、信条への依存というよりも、「特別な生き方」や「生活様式」を意味するという事実である。現代社会では、(受け入れ国とその環境に移った難民たち、地方から都会へと移った人たち、大都会のゲッターや道端の移民たちのように) 人々が新しい環境へと移った後に自らの「宗教-社会-文化」のアイデンティティーを再発見した時、いわゆる「世界宗教」と呼ばれるものに対する国家、民族、地域といった意識的な変数が重要になった。

精査の結果、適合しない「宗教」の定義を受け入れるために、さまざまな世界的現象を推すのではなく、有神的で西洋的な意味合いを「宗教」の概念から外すべきであると結論付けた。

これから、サイエントロジーの背景と宗教の教義と実践の一般的な説明を与え、私たちが特定した5つの宗教の側面からサイエントロジーに取り組みます。

サイエントロジーの宗教・哲学的背景

サイエントロジーの考え方は、ハバードのよく知られている書籍、1940年代から特に、ダイアネティックスに関するベストセラーの本が登場した1950年以降に見られるはずです。

ダイアネティックスとサイエントロジーの関係は精神的にも歴史的にも近いので、表裏一体のものとして見なすことができます。ダイアネティックスは、ふたつのギリシャ語の「dia」（～を通して）と「nous」（魂）に由来し、サイエントロジーは「知ることについて知ること」という意味であり、ラテン語「scio」（知ること）とギリシャ語「logos」（学問）に由来します。ダイアネティックスの原則が適切な「心の技術」を提供する方法として出版された一方、サイエントロジーは、宗教的哲学であることが強調されました。

英語の「科学 (science)」はギリシャ語の「scio」と同じですが、発音に意識的な違いを持たせることによって既存の不要な混乱を避けるのが適切です。ひとつの解決策は、「Scientology (サイエントロジー)」をギリシャ語の発音で、「science (サイエンス)」を英語の発音で区別するという方法です。

1954年、最初のサイエントロジー教会が、L. ロン ハバードによって明確に述べられた独自の信条とともに結成されました。その信条は、サイエントロジーそれ自体が宗教団体であることを認めた社会を明確に示しています。その信条には、「この教会の私たちは信じます」という原則、すべての人間は「平等」で「侵すべからざる権利」があり、人間は「基本的に善であること」という声明、そして神が「人間に禁じる」4つの法則が含まれています。

類似点は、ヒンドゥー教、仏教、道教のような東洋の一元的な宗教の教えに見られます。典型として、サイエントロジー儀式のハンドブックは、ヒンドゥー教や仏教などの宗教哲学の神話、アリストテレス、スピノザ、聖トーマス・アクィナスの教えを背景にしています。

サイエントロジーの教義は、人間が、サイエントロジーにおいて「ダイナミックス」と呼ばれる、交差する8つの異なる区分で生存しようとしていることを示しています。特定のダイナミックは、自己から家族、グループ、そして精神的な宇宙（第7のダイナミック）と至高の存在または無限や神（第8のダイナミック）とも呼ばれるものに及びます。それぞれのより高いダイナミックは、その下にあるすべてのダイナミックスを取り囲んでいます。

「神」の概念は、サイエントロジーの教えに存在しますが、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、および近東の宗教的伝統に根を持つ他のユダヤ教とは異なる形で存在します。サイエントロジーでは、神

が8つのダイナミックスの中で最も高く、その中には個人が含まれ、完全に知ることを目指しています。この意味で、サイエントロジーの教えにおいて、神の概念は非常に個人的なものであり、それを完全に定義することは本当に人間自身に任せられています。

精神的な領域におけるサイエントロジーの教義は、「セイタン」に代表されます。それは初期および新グノーシス主義の概念に関連しており、人間は、セイタン、心、身体で構成されています。「セイタン (thetan)」という言葉は、ギリシャ文字の「theta (シータ)」に由来し、「魂」に関連する以前の用語との混乱を避けるためにサイエントロジーで使用されています。

サイエントロジーにおける精神的な意識への道は、ふたつの中心的な宗教的实践のひとつである「オーディティング」を通して行われます。オーディティングは、セイタンに取り組み、現在と過去の生涯の両方におけるトラウマ的な経験を解決することで、セイタンが宗教サービスを進めていけるようにします。この安堵感がより高い精神的意識をもたらします。

サイエントロジーのもうひとつの中心的な実践は、「トレーニング」と呼ばれるもので、ハーバードの著作、録音、映画であるサイエントロジー教材の集中的な勉強です。サイエントロジーの教義は、精神的な救済は、オーディティングとトレーニングの両方の実践を通してのみ、この人生で達成できると教えています。

正統性を追求する「書物的宗教」

サイエントロジー教会は、よく確立された宗教であると同時に、L. ロン ハーバードの調査と発見を扱う、人間と精神の本質の発見を記した教材、講演、フィルムなど広範な資料体系を完備しています。このライブラリーは、膨大な百科事典を含む、数多くの書籍と数千ものテープ録音講演からなり、サイエントロジー教会が「書物的宗教」として認められるべき明白な証しです。この傾向は、例えばヒンドゥー教、仏教、儒教、道教、ユダヤ教、ゾロアスター教、キリスト教、イスラム教など世界の宗教と一致しています。

L. ロン ハーバードによって書かれ、記録され、制作された教材、講演、文書などの大量の資料の集成が、サイエントロジーの教義の体系を成しています。それは、彼らの生涯学習において、教会の実践するメンバーの活動の基礎であり、ダイアネティックスとサイエントロジーの最終目標、すなわちクリアーと機能しているセイタンの状態へと向かう活動です。

認可された教材は、サイエントロジストが知識や伝承を伝えるのに特別な役割を持っています。これらの教材による継続的な課題は、「神学」ではなく「技術」と呼ばれています。この概念は、サイエントロジストの中では非常に特別な意味を持っています。ハーバードは「技術の源」と考えられ、彼のメッセージは固有のものであり、改変できず、誰からの解釈をも許されないものと見なさ

れています。「精神的継承」は重要ですが、ほとんどのキリスト教の教会がそうであるように、人と言うよりも、書物と関係しています。サイエントロジー教会の誰も、今日またはその後のハバードの書面または口頭のメッセージを解釈する特権を持った「メッセンジャー」となる権限を持っていないと主張することはできません。

ロサンゼルスにある宗教法人、リリジャス・テクノロジー・センター (RTC) は、1982年に「L. ロン ハバードによる宗教的技術の規範的かつ純粋な適用について、最高位の宗教的権威」を有しています。それは、「サイエントロジー宗教とその教材の純粋性を確かなものにする」責任がある組織です。その責務は、ハバードの教材を解釈するのではなく、それを保護することでした。

RTCの設立は、宗教の形成における第2世代の共通の特徴である、正統性への明確な流れを象徴しています。例えば、宗教を築き上げる過程で、教義上の論争やその他の理由のために、その宗教の「正典」の構築 (異端宗派の努力から預言者のメッセージと教義の純粋性を守るために、教義上の「本質」と「その他」の教材との違いをもたらすこと) がしばしば必要になりました。

これに関連するもうひとつの重要な過程は、母教会の権威といった考えです。ワシントンD.C.のサイエントロジー創設教会は、1960年代半ばにその役割がカリフォルニア州のサイエントロジー教会に与えられるまで、最初の母教会でした。1981年の国際サイエントロジー教会 (CSI) の設立以来、その役割は自然と新たに設立された組織に移り、現在このロサンゼルス本部から、サイエントロジー教会のすべてにサービスを提供しています。

サイエントロジスト流の儀式と生活様式

ハバードは、彼の支持者によって創設者と呼ばれています。これは、「創設された」宗教と「民族的」宗教との比較研究における重要な区別と一致します。前者は、当時自分がそれを創設したとは考えていなかった時でさえ、その起源はある人物 (イエス、孔子、老子) に帰着します。後者は、記憶されるべき名前はなく、口頭による民族伝承があります。創設された宗教の構築過程における必要な過程は、師の周りに集まり、彼に従う準備ができている支持者を取り巻くグループが現れた時に起こります。1954年に何人かがサイエントロジー教会を設立することを決定した時、L. ロン ハバードは自然にその精神的リーダーになりました。成長する教会の監督としての任務から引退することを決定した後、創設者の地位は時が経つにつれて伝説となりました。

ある宗教の創設者の肉体的な死に続く危機的な瞬間は、サイエントロジーの歴史において、それほど問題になりませんでした。なぜなら、ハバードは生前に教会の指導者として正式な職務から退いていたからです。彼が1986年に亡くなる前に、創設者に敬意を表し、世界中の各サイエントロジー教会が彼の部屋を設けました。それがどのように起こったとしても、この種の過程は、宗教の現象学的な

比較において、新旧の宗教（それ自体が誰かによって設立されたものとしてみなしている）の形成に不可欠なもののひとつであることがわかっています。

サイエントロジー教会、ミッション、その他のセンターや本部は、労働社会的な環境を示していますが、常に崇拜の場所、毎週の献身のための神聖な場所、家族の儀式が含まれています。創設者の精神は、人間の生存に関するサイエントロジー教典によれば、「L. ロン ハバードが1986年に死去し、彼の肉体を離れた」後でも存在することが彼の多くの著書やフィルムによって描かれています。

サイエントロジー教会には創設者の生涯と教えに関する独自の神話があります。また、創設者の人生における記念日や教会の歴史を記念して、毎年記念日を設けています。

シー・オーガニゼーション（またはシー・オーグ）は、ハバード氏が教会の総代表として彼のオフィスから引退し、船上で自らの著作に専念すると決めた時、1967年に結成された特別な教団です。最初に彼に従った人々が、新しく設立された宗派の中核グループとなりました。時が経つにつれて、このグループは教会の最も敬虔なメンバーの中核として見なされ、尊敬される神話的なモデルになりました。シー・オーガニゼーションのメンバーは全員、より高いレベルの教会のスタッフとして奉仕することによって、この宗教のためにフルタイムで働いています。彼らの献身の証しが、「次の10億年間」というシー・オーガニゼーションの雇用契約です。

このような教団は、多くの点で、イエスやマホメット、ブッダになった時にゴータマ王子を取り巻く修道僧グループのような、世界宗教の創設者を取り巻く弟子のサークルのひとつが思い起こされます。それは宗教的な神話と象徴主義の非常に具体的な現れです。ですからそれらが、私たちがサイエントロジーは新しい宗教であると結論を下す根拠のひとつなのです。

教会の教団メンバーの典型として、彼らは、教会のためにまた教会で働くために、大部分の時間を費やす一種の家族を形成し、同時にお互いの日々の経済的ニーズを満たし、子供たちの世話をしています。このようなライフスタイルは、非常に包括的であり、シー・オーガニゼーションのメンバーは通常、その中で家族を確立します。シー・オーガニゼーションのメンバーが着用している共通の海軍のユニフォームは、感情的なレベルと社会的なレベルの両面において重要な統合要素です。

教会員の大多数は、サイエントロジー教会のオーディティング、コースおよびその他のサービスに参加しますが、教会の外に居住し、働いています。彼らは、さまざまな分野の人たちで構成されています。彼らは地元のサイエントロジー教会員や宗教共同体の一員であり、程度の差こそあれ、自分の人生においてサイエントロジーを自分の宗教として方向付けています。彼らはサイエントロジーのエシックス（倫理）の規律と基準に従って生活し、サイエントロジーの原則と方法を自分の人生に適用し、子供たちにサイエントロジストとして生き、行動するように育てています。

神話的ですが、サイエントロジーの教えにおけるこの精神的なつながりは、通常の人間の存在の境界を超えています。ヒンドゥー教や仏教の教えである輪廻（生まれ変わり）の代わりに、サイエントロジーは「過去の人生」について特別な教義を発展させました。サイエントロジストは、クリアーの状態や機能しているセイタンに移行するオーディティング中に、より以前の人生について話すことがあります。サイエントロジーの精神的な啓発への道筋の最終段階として、仏教の悟りを思い起こさせる心の調和に到達します。

サイエントロジー教会は、聖職者教育の特定のコースを終えた後、聖職者を叙任します。そのトレーニングを受けて叙任された聖職者は、男女ともに、儀式のハンドブックに従って儀式を担当します。この重要な聖なる行為は、毎週日曜日の教会サービスに関する進行と、人間のライフ・サイクルの重要な瞬間を扱う「通過儀礼」の両方を扱います。サイエントロジー教会は、命名式、結婚式、葬式のためのいくつかの型を、創設者によって述べられた規範的な説教で正確に行います。

宗教間交流におけるサイエントロジーの役割

今日の宗教は、平和な風景よりもむしろ、街頭や都会のスラム街で見られます。宗教や世界観は、人々が会うところ、生と死の通過地点で見出されます。家族の中でさえもです。これは特に現代的で都会、家族中心のサイエントロジー教会に関係しています。

サイエントロジー教会は、今日、偉大な世界宗教の代表者、そして統一教会、新ヒンドゥー教、仏教運動などの新しい宗教との間で、宗教間の対話に非常に積極的に参加しています。これらの議論から、宗教問題だけでなく、平和と戦争、生態系と大気汚染、家族の将来、女性の役割などについての問題や、新しいプログラム、機能が世界中で確立されています。

新しい宗教としてのサイエントロジー教会

上に挙げた5つのカテゴリーの議論を念頭に置き、規模が急速に広がる「新宗教」の運動の資料をもとに、主にその教えや実践、組織を扱うサイエントロジー教会の役割と場所を検討します。重大な問題は以下のとおりです。サイエントロジーは「宗教」か？この報告書は、一般的に以下の宗教の要素についてサイエントロジーを学んだ英国の宗教社会学者、ブライアン R.ウィルソンによる別の研究と比較されるかもしれません。

- a. 超自然的なもの、人間の究極的な関心事などの事柄に関係した信仰、実践、人間関係、宗教機関
- b. 服従、崇敬または礼拝の本質となる実践
- c. 宗教的生活の集合的または集団的特性

世界の宗教をいくつか慎重に研究した後、ウィルソン氏は神学と組織としてのサイエントロジーの詳細な説明を与えている。彼の重要な最終声明が含まれている — 「宗教は時とともに変化し、宗教自体は変化する」。

ウィルソン氏は、「新しい宗教」や「現代の動きは、私たちの（比較的時代を超越した）モデルのすべての項目に合致しない」という彼の意見を共有する事実重点を置く時、「変化」の重要なポイントを認識している。ウィルソン氏の最終声明 — 「サイエントロジーが善良な宗教であり、そうだと見なすべきであると結論する」。

次に、宗教の5つの側面の下でサイエントロジーを扱います。

A. 認識的な側面

サイエントロジーの認識的な側面は、すべての存在を精神の領域と神を頂点に持つ、8つの別々の面に分かれる8つのダイナミックスの教義において、世界と宇宙の独特で詳細な見解によって証明される。超自然の存在に対して持っているサイエントロジストの信念は、精神（セイタン）としての真の自己およびセイタンの不滅性（何千年にもわたる過去の人生）に対する信念と、精神の世界および神に対する信念に組み込まれている。サイエントロジストは、自分たちの運命、必要性、価値を、これら超自然の力と神を通じて決定する。

サイエントロジーは、学問または「書物的」宗教として特徴付けられなければならない。その伝統は、もっぱら創設者による信条と大量の文書と講演を通じて伝えられている。

B. 情緒的または感情的な側面

サイエントロジーの情緒的または感情的な側面は、サイエントロジーの実践と超自然的な領域と密接な関係にある。サイエントロジーにおける宗教上の経験は、サイエントロジストが精神としての現実性を共有するオーディティングとトレーニングにある。この共有は、オーディティングにおいて特に顕著である。なぜなら、サイエントロジーの聖職者が精神的な害の事例を解決するためにセイタンを過去の人生に導くからである。サイエントロジストは、8つのダイナミックスを調整し、バランスを取るための努力を通じて、精神面と神とのコミュニケーションを取る。サイエントロジストは、自分自身や他者を物理的次元をはるかに超えて生きる精神（身体ではない）と考えている。彼らには一般的に、他の存在と精神的な宇宙との共通の態度と連帯意識がある。

C. 意欲や行動的な側面

サイエントロジー宗教の意欲的または行動的な側面は、その原則儀式（オーディティングとトレーニングの宗教的実践）とその通過儀式、葬式、命名式の儀式にある。サイエントロジーの教義は、教会

員の倫理的行動の最高基準を求めており、彼らの行動を導く行動規範のシステムを高度に発達させている。これらはサイエントロジーの「エシックスとジャスティスの制度」の一般原則、オーディターの規律、監督者の規律、サイエントロジストの名誉の規律およびその他の規律などのより具体的な規範に記載されている。

D. 社会的な側面

サイエントロジー宗教の社会的な側面は複雑な教会学に反映されている。サイエントロジー教会の国際階層は、いくつかのレベルといくつかの特定の組織で構成されており、その機能は正統性と個々の教会の活動を統制することである。国際的に宗教の実践と普及を監督する、教会階層構造の「母教会」である、国際サイエントロジー教会 (CSI) がある。サイエントロジー教典の純度と宗教の正統な実践を直接担当するリリジャス・テクノロジー・センターがある。

CSIの監督下にある個々の教会は、彼らが奉仕する宗教的サービスのレベルを反映した階層的な順序で配置されている。例えば、サイエントロジー宗教サービスの最高レベルを務めるフロリダのサイエントロジー・フラッグ・サービス・オーガニゼーション教会、世界各地にあるさまざまな「上級オーガニゼーション」および「セントヒル教会」は、中級レベルの宗教サービスを提供する。その下にはサイエントロジー教会、サイエントロジー・ミッション、独立した聖職者が存在し、下位レベルと最も低いレベルのサービスを担当している。それぞれのレベルは国際サイエントロジー教会 (CSI) の傘下の教会組織によって監督されている。

E. 文化的な側面

サイエントロジーの文化的な側面は豊かで多様である。サイエントロジーは新しいものだが、すでに多くのユニークな機能によって識別された独特の文化を持っている。それは「セイタン」、「クリアー」と「オーディティング」などの用語で、ふたつの別々の辞書で独自の術語を持っている。祝日には、L. ロン ハバードの生誕日、「オーディターズ・デー」などの独自のカレンダーがあり、サイエントロジストにとって特別な意味を持つ日がある。サイエントロジーには、大きな宗教的意味があり、メンバーたちが巡礼する、イギリスのセントヒル荘にあるハバードの家や、合衆国フロリダ州のサイエントロジー教会フラッグ・サービス・オーガニゼーションなどがある。

サイエントロジストは、自分の人生をサイエントロジー教典に厳密に従わせている。彼らはサイエントロジーのエシックスと道徳を日常業務や他人との関係、家族の育成に適用している。多くのサイエントロジストは、ハバードによって開発された勉強方法など、サイエントロジーの原理を適用する学校に子供を入学させる。どの年齢層のサイエントロジストも薬物 (ドラッグ) は取らず、薬物使用には断固反対している。

最も献身的なシー・オーガニゼーションのメンバーのサイエントロジストは、宗教的な共同生活を営み、日々の食べ物や宿舎、医療や経済的なニーズに対処し、独特の制服を着用して特定の習慣によ

って生活し、ほとんどすべての労働時間を宗教サービスに費やす。サイエントロジー教会は、すべての機能を備えており、教団で奉仕している人々の「生き方」を明確にする。

結論

上述の私たちの詳しい調査は、多くの新しい宗教が存在する現代世界では、「religio」というラテン語の概念の解釈に基づく狭義の定義よりも、宗教とその世界的な多様性に対するよりオープンな見方が必要であり、今でもいくつかの政府関係者によって繰り返されることがあります。宗教のカテゴリーに含まれる5つの要素は、上記でまず全般的に詳述し、それからサイエントロジーに限定して詳述したものです。1. 知性的要素、2. 感情的要素、3. 活動的要素、4. 社会的要素、5. 文化的要素。

私たちの見解によると、サイエントロジーが新しい宗教とみなされる理由は数多くあります。特にその分類に適合しているのは、それがまさに「宗教」という言葉の極めて西洋的な意味を持った、西洋発祥の現代的宗教であるということです。それは明らかに、より広く社会に宗教的メッセージを伝えるのに、現代的な社会・文化ネットワーク・メディアを利用して西欧諸国に出現した新しい「宗教性」の現れです。

包括的なネットワークの利点を活用しようとする意欲的な努力の中で、これは私たちの時代において最も「現代的」で「議論の余地ある」宗教のひとつとなっています。

いわゆる新宗教の多くの典型は、実践する人自身ではなく、学者によって「宗教」として分類されている、ということです。確かに、組織化された手続きを確立するのではなく、いくつかの新しい宗教運動は、あまり堅苦しくない集団を好みます。例えば、近代ヒンドゥー教のヨガや瞑想グループには組織がなく、「宗教的」と見なされることを嫌います。しかし、最近の進展において、その中には必要に応じて、「宗教的」な社会の形成を規制する連邦または国内の法律に従い、「科学的」な社会として「登録」されたものもあります。

1954年の設立以来、サイエントロジー教会は、常に組織を特定し、宗教団体として認められるように取り組んできた数少ない新しい宗教のひとつです。実際、サイエントロジーは世界中のさまざまな文化の多くの公的機関によって「教会」と「宗教」として認知されています。

教義とサイエントロジー教会自体は、20世紀に生まれ、メッセージを伝えるのではなく、公的な講演をしたいという現代アメリカ人のビジョンに基づいている、という事実と関連しています。初期のL. ロン ハバードの執筆や教育は、実験的で精神哲学的なものを試みており、宗教的な考えではありませんでした。ダイアネティックスは、ハバードがその後の研究においてその精神的な側面と古代世界の宗教との精神的なつながりを発見した時、サイエントロジーとなりました。

サイエントロジーの教えは、さまざまな宗教や哲学の伝統を背景にしています。創設者によって開発され、明らかにされた新しい「書物的宗教」のメッセージは、神聖な教典の資料によって忠実に記録され、保存されます。それらは全体として、宗教上の経験、儀式、より多くの行動、そして教会の社会構造を文化標本とともに提供しています。

サイエントロジー教会の包括的な社会組織は、そのすべてのネットワークと文化的基盤とともに、「宗教」団体としての特徴を持った社会の本質を示す重要な証しとなっています。シー・オーガニゼーションという教団の海事神話は、教会の目標に完全かつ永遠に彼らの人生を約束することを決めた人々のための社会構造の基礎を形成しています。

ヨーロッパおよびスカンジナビア諸国にある、教会の本部の教会員たちと接触する限りにおいて、教会は、愛情や意欲のレベルで宗教的と呼ぶことができる生活様式や経験などももたらしています。

したがって、私たちはサイエントロジーが宗教であることを発見しました。

サイエントロジーに関する情報源について

サイエントロジー教会を扱う、急速に拡大している文献の概要は、出版物の中で基本的に4つのカテゴリーに分かれます。

1. サイエントロジーの教典であるL. ロン ハバードの著作と録音された講演とフィルム。
2. 人間の本質およびその救済方法に関するL. ロン ハバードによる、おびただしい量の著作に加え、教会は大量の教材と視聴覚資料を作成し、出版しています。1994年に創立40周年を迎えました。これらの内部出版物の焦点は、教会の標準的な教材とその内部の歴史にあります。
3. これら出版物のいくつかは、サイエントロジー教会が1954年の設立以来、さまざまな国のマスコミから批判的議論にさらされて来たという事実に基づいています。外部から来るこれらの記事は、しばしば反論的で、個人的な意見に基づいています。
4. 近年、サイエントロジー教会に関する、より中立的な宗教社会学の文献が増えています。これは、今日の多くの学者がサイエントロジーは「宗教」であるとの意見を共有しているためです。典型として、サイエントロジー教会は、バーカー、ホルム、メルトン、ウィルソンなどの宗教学者や社会学者によって出版された、最新のハンドブックで「新しい宗教」として認識されています。

サイエントロジーに関するほとんどの研究は文献に基づいています。サイエントロジーの歴史は非常に短いものですが、重要な情報提供者や教会員のインタビューや観察など、フィールドワークを通じて顕著な新しい情報を得ることができます。書物以外にも、ヨーロッパ、デンマーク、フィンラ

ンドの教会本部の一部の人たちと会ってインタビューを行い、実際に教会の機能を観察することができました。このレポートを作成する過程で、さまざまな文書、ハンドブック、過去および現在のサイエントロジー教会の現状とさまざまな国の発展に関する印刷された報告書と印刷されていない報告書があります。

ユハ・ペンティカイネン
マーヤ・ペンティカイネン
フィンランド、ヘルシンキ
1996年5月

